

宇治市植物公園 あり方検討委員会 提言書〈概要版〉



令和元年12月

宇治市植物公園あり方検討委員会 提言書 (概要版)

宇治市植物公園あり方検討委員会(以下、「本委員会」という。)では、宇治市植物公園(以下、「植物公園」という。)のあり方について、下記のとおり提言します。

課題 ~あり方を検討するに至った背景~

- ・ そもそも市民にとって、また、都市緑化の拠点として必要な施設なのか
- ・ 市の財政状況に鑑み、植物公園の収支状況は市民理解を得られるものであるのか
- ・ 開園して20年以上経過し、老朽化による大規模な施設改修が必要となっている

評価 ~本委員会の総意~

植物公園は美しく、「みどりの拠点」として、市としてあり続けるべき施設

本委員会では、現在の市の財政状況等に鑑み、植物公園を廃止することも視野に検討を行いました。しかし、植物公園の植栽管理レベルは素晴らしいものであり、また、開園して20数年経過した施設であるにもかかわらず、年間8~10万人前後で安定的に推移していることは継続して市民に愛されている施設であると評価できます。「みどりゆたかな、住みたい、住んでよかった都市宇治」を都市像の理念として掲げている市にとっても「みどりの拠点」として整備した植物公園がもたらす効果は大きいものであると考えます。



ただし、現状のままでは課題の解決にはなりません。
よって、下記のような取組が必要であると考えます。

今後の方向性 ~提言~

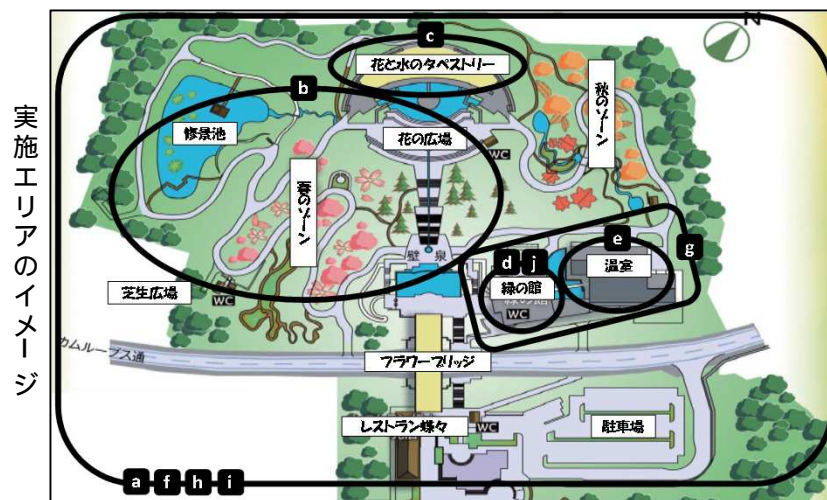
- ・ 「一度は行ってみよう」と思わせる園づくりを！
植物公園の植物の管理レベルは非常に高く、絶滅危惧種の保全などにも大きく貢献しています。ただ、専門性が高く敷居が高いと感じる人が多いのも事実なので、植物に詳しくない人でも「あそこに行けば楽しそう」と思わせるような取組、園づくりに努めるべきです。
植物公園は開園当初から年間入園者数の目標を13万人としています。未だ達成されていません。まずはこの目標を達成し、さらなる高みを目指していけるような魅力ある園づくりが必要です。
- ・ 老朽化対策は計画的に！
開園以来、大規模改修等を実施しておらず、特に設備関係の更新が必要となっています。機器の故障等による休園は来園者の期待を裏切るだけでなく収入にも大きく影響することから、計画的に改修を行っていくべきです。
- ・ 収支改善を図る努力も必要！
植物公園は、第一義的には市民のための公共施設としてあるべき施設ですが、市民の税負担を可能な限り軽減できるよう、市外や外国からの観光客にも来園してもらい、収入を上げられるような取組を実施するとともに、施設管理においても最小限の経費で最大限の効果が得られるよう努めるなど、収支改善に向けて不断の努力が必要です。

また、今後の方向性を実行に移す際には、市で初の取組となったサウンディング型市場調査における民間事業者の意見等も大いに参考にすべきであると考えます。

具体的な取組 ~ 課題解決の手法 ~

魅力増進策

- a. 体験型施設の整備、体験型イベントの実施
- b. 憩いの空間の整備 (ex:遊べる、昼食が食べられる広場等)
- c. 民間活力の導入による花と水のタペストリーの整備
- d. 売店や軽食が食べられる施設の整備
- e. 温室を活用した取組の実施 (ex:イベント、カフェ等)
- f. 魅力ある園内植栽の整備 (ex:一面花畑、人気のある植物の植栽等)
- g. WiFi環境の整備
- h. フォトスポットの整備
- i. 新たな集客イベントの実施 (ex:イベント団体・会社への貸館等)
- j. トイレの改修 (ex:緑の館内トイレの温水洗浄便座化等)



経費削減策

- k. 緑の館、温室の空調設備の見直し、更新
- l. 日常維持管理の見直し
- m. LED照明への更新

広報営業活動

- n. 観光協会等と連携してPRの強化
- o. バスツアーの企画
- p. PR専任職員の配置
- q. SNSの活用

その他

- r. 入園料や駐車料金等の料金体系の見直し
- s. サポーター制度等の導入
- t. 民間企業や大学等との連携事業の実施
- u. イベント会場としての活用等、貸館事業の積極的な実施

上記取組は集客増や収入増、維持管理費の軽減につながる取組ではあるものの、初期投資が必要であるものがほとんどです。現在の市の財政状況等に鑑みても一度に全ての取組を実施することは現実的ではないため、一定の精査を行った上で短期で行えるもの、中・長期的に行うべきものなどに分類するなど財政負担に配慮することも重要です。



今後も愛され続ける植物公園としてあり続けるためには、来園者が何を求めているのか、また、植物公園として何を伝えたいのかを常に研究、分析し、必要な取組を実施することが重要ですが、そのためには市の財政負担を伴うものもあります。取組の実施に当たっては、短期で実施できるもの、中・長期の期間が必要なものなどに分類し、市の財政状況等も勘案しながら、本提言を着実に実現されることを求めます。市民に愛され、多くの人々で賑わう植物公園となるよう、本提言がその一助となることを期待します。

令和元年12月
宇治市植物公園あり方検討委員会